

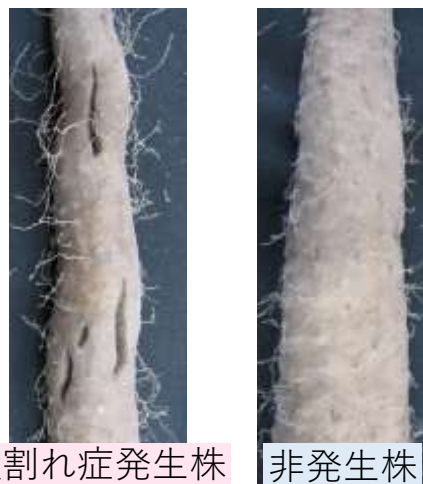
‘ねばりっ娘’ 縦割れ症の発生要因調査

縦割れ症とは

- ・ イモが縦方向に割れた傷跡
- ・ ‘ねばりっ娘’ 特有の症状(在来ナガイモでは発生しない)

発生要因は不明

発生要因究明と低減技術の確立を目指し調査



1. 種芋による差異なし

子芋・頂芽の違いおよび種芋重の違いが縦割れ症の発生に及ぼす影響はなかった

2. 縦割れ症は、特定のほ場で発生する

表：収穫時の縦割れ症発生株率（%）調査

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
Aほ場	1.8	0	0	1.3	1.2
Bほ場	0	4.0	1.4	5.6	5.0
Cほ場	31.9	21.8	5.6	32.4	17.5

栽培基準通り栽培し5カ年調査

Cほ場では毎年縦割れ症が発生し、Aほ場・Bほ場ではほとんど発生が見られず、ほ場による差があった

3. 施肥量を増やすと発生増加(縦割れ症発生ほ場における調査)

表：収穫調査結果（栽培実施場所：Cほ場）

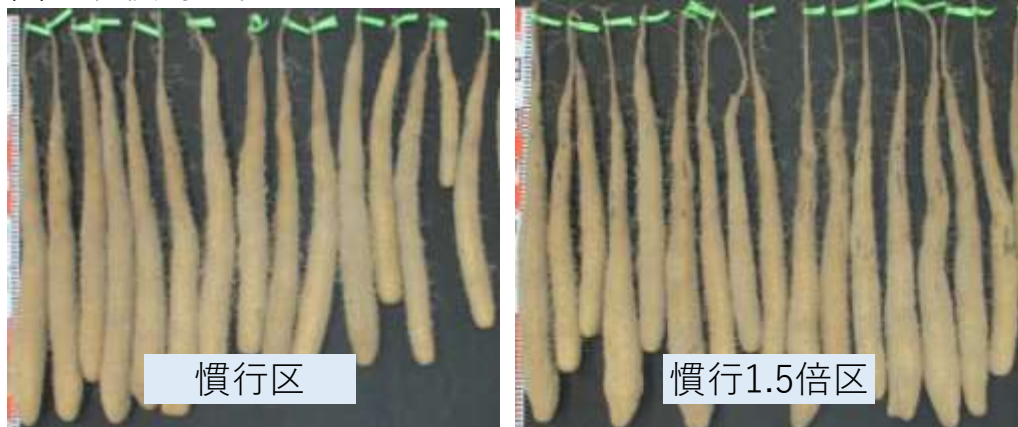
栽培年	処理内容	芋重 (g)	乾物率 (%)	縦割れ (%)
2017年	慣行	943.9	26.4	21.8
	慣行1.5倍	986.4	25.3	47.1
	分散分析	n.s.	n.s.	* *
2018年	慣行	805.7	27.2	5.6
	慣行1.5倍	958.2	24.6	36.1
	分散分析	n.s.	n.s.	†
2019年	慣行	946.9	27.9	32.4
	慣行1.5倍	1053.7	26.2	60.2
	分散分析	*	*	*
2020年	慣行	903.1	26.3	17.5
	慣行1.5倍	1027.5	25.0	47.1
	分散分析	*	†	†

分散分析：n.s.：有意差なし、
†：10%レベルで有意差あり、
*：5%レベルで有意差あり、
**：1%レベルで有意差あり

栽培基準通りに施肥する慣行区と慣行の1.5倍量施肥する区を設け、検討

- ・ **縦割れ症発生株率は慣行区で慣行1.5倍区の半分以下**
- ・ 慣行1.5倍区は慣行区と比較して乾物率が減少傾向、芋重増加は1割程度に留まった

図：収穫時の様子



縦割れ症発生ほ場において施肥量を増やすことは増収効果よりも品質低下による悪影響が大きい